

平成 30 年度 第 3 回学校協議会 議事録

平成 30 年 12 月 3 日（月）実施

➤ 協議会委員の出席者

今西恭夫委員 中井正昭委員、伊波豊委員、山岡鉄男委員 濱口恵子委員

➤ 教職員の出席者

北橋校長 清家教頭 山崎首席

➤ 議題

1. 全国学力学習状況調査結果について
2. 学力向上の取り組みについて
3. 運動会アンケート結果について
4. 地区懇談会アンケート結果について
5. その他（2学期の授業参観等の感想）

➤ 【協議・意見】

1. 全国学力学習状況調査結果について
2. 学力向上の取り組みについて
 - ・学力調査の問題を見ると、最初から、読み取って、考えなければならない問題が並んでいて、国が求める力はこうゆうことなのかと分かった。味生が今やろうとしていること、変えようとしていることもどういうことのかつながった。
 - ・討論やディベートなどは、日本人の弱いところだからとても良い。だが、そのレベルにまで達するには、文の理解力がないとできない。
 - ・なれないとできない問題にも感じるが、社会で生活できる力につながっていくのか。
 - ・平均点を上げるための勉強をさせるようなものではないことも分かった。
 - ・急に変わらない背景もある。家庭にも、学力調査の内容を訴えていく必要がある。
 - ・子どもたちは、果たして、家に帰って、机に向かう時間がどれくらいあるか？
 - ・勉強の仕方は全く変わってきている。こんな風に教えているのやなと思った。算数でも、昔と違う教え方をしている。
 - ・今の子どもの実態を見ると、語彙力は入学時に既に開いている。ドリルの中に書かれている言葉だけでなく、他の言葉も教えていく。子どもの興味関心を広げていく必要がある。
 - ・M I M や言語活動など、学校の取り組みをもっと発信してほしい。
 - ・落ち着くことも教えてあげなあかん。
 - ・家庭学習も大事になってくるのもわかる。まずは、親、家庭の事情はいろいろあるが、家庭が基本。ゲームなどに影響され、自分で考えないで感覚だけで生活しているようなことはないだろうか。
 - ・味生に限らず、子どもたちを見ていると語彙力は少ない。家庭の会話も基本で、とても大切。どれくらい家族の会話があるのだろうか。
 - ・今の学校の取り組みは、どのような目的があるのかがよくわかつってきた。

3. 運動会アンケート結果について

- ・団体競技、団体演技など、教師も子どもも一緒に汗をかいて取り組むものが多く感動した。
- それは、保護者に伝わったと思う。
- ・安全性の面で、運動会のありようも変わってきていたがよく工夫されていた。
- ・保護者が協力的で、マナーもとても良くなつたと感じた。

4. 地区懇談会アンケート結果について

- ・肯定的な意見が多かった。
- ・地域の参加者が多く、質問も地域の方々がしていたが、今年は違つたので良かった。
- ・保護者の参加が多かつたので、とても良かった。
- ・学校協議会を知つてもらう機会にもなつた。

5. その他（2学期の授業参観等の感想）

- ・物を考える力、行程が大切。習慣づけることが必要。なぜそうなつたのかなど考える癖をつけることが必要。何も起こらなかつたらいいが、困ったときの対処、生きていくためにはそういう力が大切。家庭、親が考えて教えていかないといけない。
- ・教室の雰囲気が変わつた。楽しい雰囲気が伝わってきた。
- ・自分の意見を言い合う雰囲気ができている。
- ・学級集団づくりを通して、リーダーが育てられ、子どもたちの中で役割が意識されていると感じられるクラスもあつた。
- ・授業づくりとその手立てが大切。授業の最後に、自分の考えを発表する。一時間一時間の授業を完結し、大事にして欲しい。
- ・高学年の道徳、リラックスして授業を受けていた。姿勢は悪いともいえるが、危機感をもつて、つけたい力をつけるために教職員が訴えていくことが大切。OKのレベルを低く設定しなければいけない現状が心配。もう少し、個人にも合つたレベルも考えて欲しい。なかなか難しいとは思うけど。
- ・スマホのルールをどんなルールにしたらいいのかがわからない。『守らせたいルール』を学校から示してもらう方がやりやすい。帰る時間やスマホの時間など、学校で統一のルールを示してくれると家のルールを決めやすかつた。
- ・研究事業の時、たくさんの先生方に囲まれても自分の意見を言えていたことはすごかつた。子どもも子どもなりに一生懸命努力しているだけに、そこを大切にしてほしい。